

「ねえ、お母さん、今の気持ちを表現してみても・・・」

「そうねえ。『秋きぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる』かしら」

と、自分の気持ちに近い古今集の藤原敏行の和歌を引用して答えてくれた。私は、

「かつこいいー！」

と思わず叫んだ。

感じたこと、考えたことを表現したいと思った時、自分の頭の中にある言葉の中から一番ピッタリと合う言葉を探してみる。でも、自分の語力がなかったら、感動を言葉で表現することはできないと思う。

よちよち歩きを始めた頃、私は、見たもの全てに興味を持ち、両親や祖父母から教えてもらった言葉をくり返し使っていたそうだ。また、気に入った絵本や童謡も毎日見聞きしていたそうだ。

小学校高学年になった今、「ファーストフード的な言葉」つまり、短くて簡単な言葉で表現する友達が多くなつたと思う。例えば、友達が何を見ても、どんな状況でも「超かわー」「すげえーいいー」と表現し、大人っぽく伝えてくれるつもりでいる。しかし、聞いている私には感動が伝わってこない。

まだまだ、人生経験や知識のない私たちは、たくさん言葉を学び、実際に使ってみて覚えていかないと心に残った風景や、見ている自分の心の状態を豊かに表現できないと思う。

また、和歌や古文を読んでみても、言葉の意味合いが現在の使い方とは違っている場合もある。

言葉は自分を表現する方法だから、かつこいい言葉やひびきのよい言葉を使ってみたくなる。そういう時は、自分の心や考え方を上手に表現できているかチェックして、まちがった使い方をしないようにすればいいと思う。

そして、正しい日本語を話し、人に勇気を与えられる言葉かけができる人になりたいと思います。